

## 公約を 着実に実行

市長4期目が  
スタートして、

8か月が経過しました。公約には、

▶ 新型コロナウイルス感染症対策

▶ 中心市街地と外旭川地区におけるまちづくり

▶ デジタル化の推進

▶ さらなる産業の振興と雇用の創出

▶ 子どもを生み育てやすい環境づくり

▶ 高齢者などが活躍できる

すべての人にやさしいまちの実現

▶ 芸術文化・スポーツ・観光によるまちづくり

▶ 地球温暖化対策の推進

▶ 安全・安心なまちづくり

▶ 市民協働と教育の充実

という、アフターコロナも見据えた10項目47プランを掲げました。3期12年にわたり、元気な秋田市を次世代につなぐため、さまざまな課題に真摯に取り組んできました。その成果と経験を土台に、新たな取り組みを盛り込んで設定したものです。

4期目初登庁時(4月5日)



## 命とくらしを守り抜くために

とりわけ、新型コロナウイルス感染症対策については、「命とくらしを守り抜く」という強い決意のもと、保健所はもとより、全庁も挙げて最優先で取り組んでいます。ワクチン接種は、高齢者、保育士、教職員、妊婦、受験生など、優先度も考慮しながら進め、昨年11月に希望者への2回目の接種をおおむね終え、3回目の接種が円滑に実施できる体制を整えております。

ワクチン以外にも、市立の小・中・高等学校や保育所などに抗原検査キットを配布したり、市役所内に開設した民間の「新型コロナウイルスPCR検査センター」で無症状者への検査を実施するなど、感染状況に応じ、安全・安心につながる対策を積極的に講じてきました。

さらに、事業者や家計への支援として、売上が減少した飲食業者への支援金支給、子育て世帯などへの商品券配布、プレミアム付き



ワクチン接種会場を視察する市長(中央)

商品券発行、離職者などへの資格取得支援、県が創設した当初3年間を実質無利子とする融資制度に関し4年目以降の利子を負担する無利子融資制度など、本市独自の支援策に取り組んできており、今後も効果的な対策を講じてまいります。

## 写真で振り返る2021



6月8日に市役所で行われた、東京2020オリンピックの聖火リレー点灯式



4月、まちなか観光案内所が大町にオープン！まちあるき観光の充実にも



## 着実に前進

### 中心市街地のまちづくり

「まちの顔」である中心市街地の活性化は、平成27年の県・市・JR東日本の三者による連携協定締結や、平成29年の第2期中心市街地活性化基本計画の策定を契機に、官民の取り組みが活発化し、地価の上昇にもつながるなど、成果が具体的な形で現れてきています。柔らかな肌触りの芝生やベンチで、家族や学生が思い思いに過ごす秋田駅西口駅前広場。新たな表現や創作の場に、子どもから大人まで、自由に立ち寄り楽しむ文化創造館。



建設中のあきた芸術劇場



多彩な催しを楽しめる文化創造館



秋田駅西口のイルミネーション

どちらも、開放的な空間に、穏やかで心地よい時間が流れ、今後も市民のみなさんの魅力的な使いかたの可能性が広がります。

今年6月には「あきた芸術劇場ミルハス」も開館予定です。一步一步、着実に進化する中心市街地へ、ぜひ足を運んでいただきたいと思っています。

## 若者が未来を思い描けるように

### 外旭川地区のまちづくり

中心市街地のさらなる活性化とともに、若者が未来を思い描けるまちづくりの視点から、新たな政策展開が求められます。

コンパクトシティというまちづくりの方向性を基本としつつ、今後のモデルとして、外旭川地区において、民間の知見やノウハウなどをいかし、AIやICTなどの先端技術を活用したまちづくりとあわせ、卸売市場の再整備や新スタジアム整備を進めたいと考えています。年度内に公募で事業パートナーを選定し、新年度に基本構想を策定したいと考えており、市民のみなさまや市議会のご理解を得ながら、検討を進めてまいります。

◆ 今後も、「ともにつくりともに生きる人・まち・くらし」の基本理念のもと、公約の実現を図り、若者が将来に希望を持ち、進みたい未来や生き方を選択できる社会の実現に向け、全力で取り組んでまいります。本年もどうぞよろしく願います。



11月22日、中国・南寧(なんない)市との友好都市提携協定調印式をオンライン通信で行いました



10月17日に開催された広小路バザール。感染症対策も万全に、会場はにぎわいました！